

こども通信

塚田こども医院

小児科・アレルギー科
漢方内科

上越市栄町 2-2-25
TEL 025-544-7777(代)
025-544-7779(保育室)
FAX 025-544-8456

ホームページ
www.kodomo-
iin.com



高田城跡公園のソメイヨシノは見事でした。咲き始めて数日で満開になり、見頃の時間は短かったですが、山の雪がどんどん消えていき、新緑の景色が広がりました。杉花粉の飛散も終わり、外での活動がしやすくなりました。

雪国の人々が待ち望む春の到来です。

ですが、水不足は大丈夫でしょうか。夏の暑さも心配です。

寒さと暑さの両方を気にかける・・・困ったことです。



性能が高いです。

2月に始まったアメリカとイスラエルによるイランへの攻撃は、もう2か月を過ぎましたが、「出口」が

他の産油国からの輸入を図っているといいますが、その数量は少ないです。他の国でも、油不足は深刻な

見えません。特にホルムズ海峡の封鎖が長期化することで、私たちの生活はいろんな分野で脅かされています。政府は十分な量を確保して、今は目詰まりをしているだけだと思いますが、本当でしょうか。

原油が中東から入っていないのは確かです。戦争がいつ終わるかは見通せません。長期化しそうです。仮に終わったとしても、機雷の敷設などで安全な通行ができない

性能が高いです。他の産油国からの輸入を図っているといいますが、その数量は少ないです。他の国でも、油不足は深刻な

備蓄があるからと言っても、大丈夫ではありません。備蓄の数量は限られています。数ヶ月以内にはそれもなくなるでしょう。

すでに原油の不足で、一部の石油商品が生産されない状況です。そして価格が上昇しています。

小さなゴムパッキングが不足して車という製品は製造できなくなります。医療用の手袋が納入されな

れれば、必要な手術をすることもできません。歯がゆい事態です。

日本はイランと特別な関係にありません。直接イランと関係を持ち、原油輸入の手立てができるはず

です。それができないのは、トランプ政権に媚を売り、戦争を止めるよう進言できない政権に問題があります。戦争を止める！

そう叫ばざるをえません。

水曜午後の外来を行っています。診療時間は午後2時～5時です。

感染症情報

インフルエンザB型は概ね下火になりました。今シーズンは1か月早く流行が始まりましたが、結局終わりは例年通りになりそうです。

新型コロナウイルス感染症は少数の発生です。欧米では新しい変異株の流行があるとのことで、日本にも早晚入ってくるかと思えます。

感染性胃腸炎の発生は少なくなりました。嘔吐と下痢があり、乳幼児では脱水や低血糖にならないように注意が必要です。

溶連菌感染症はやや発生が多めでした。強い咽頭痛と発熱が特徴です。

RSウイルス感染症やヒトメタニューモウイルス感染症が少しずつ流行しています。小さな乳児がかかると喘息のような発作を起こし、重症になることがあります。

水痘(みずぼうそう)の発生が少しありました。2回のワクチン接種が終わってれば軽く済んでいます。

麻疹(はしか)の発生はありません。しかし全国的には麻疹患者は出ています。大変に伝染力が強いので、十分に注意が必要です。

麻疹の予防接種は1歳代と入学前1年間の2回が必要です。1歳になったら早めにワクチン接種を受けてください。また大人の方がかかることが多いようです。ワクチン接種をしてあるか確認したり、必要であればワクチン接種を受けてください。

麻疹の流行が拡がらないように願っています。

医療費助成

上越市はどうした？

子ども医療費の助成制度が自治体で作ってあります。「子ども医療費助成制度」と言われているものです。

一般に医療費は一定の割合を窓口で支払います。乳幼児（就学前）で2割、小学生以上で3割です。

近年、自治体の少子化対策、あるいは子育て支援の一環として、この窓口負担を自治体で肩代わりする動きが強まっています。

●仕組み

多くの市町村は一定の額、あるいは全額を補助しています。それも「現物給付」といって、窓口負担の一部、あるいは全部を直接補助していただきます。患者さん（親御さん）は窓口負担が軽減し、その後のお金のやりとりはありません。

これに対して「償還払い」は、窓

口で支払いをし、その領収書を持って市町村の窓口に行き、そこで助成額が支払われるというものです。患者さん（親御さん）は結果として同じ額を助成されるのですが、一旦窓口負担が生じるので、気持ちの上での負担感があることでしょう。また市町村窓口に出かけるという手間がかかるものです。

「子ども医療費助成制度」ができてから数十年が経ちますが、当初は償還払いもありましたが、次第に現物給付が増えてきました。今では例外的な扱い（遠くの市町村で受診したなど）を除いて、ほぼ現物給付になっているようです。

●上越市の現況

当院のある上越市でも、この制度の充実を計ってきました。適応する年齢と、内容です。

今は入院・通院とも0歳から就学前までは全額補助の対象です。

オンライン診療を行っています。

希望の方は予約画面からどうぞ。

つまり、窓口負担はない状況です。

小学生以上、高校卒業までは、入院では日に1200円、通院では日に530円（月4回まで）です。

ところが隣の妙高市では、数年前から高校卒業まで全額補助になりました。糸魚川市でも同様です。

上越市の前の市長の4年間、年齢や内容の拡充はありませんでした。「革新系」といわれていたのに、どうしたことでしょう。

以前は上越市が先に制度を作り、それを近隣の市が後追いをする形で

制度の拡充が決まってきました。でも、今では逆です。

新市長さんにはぜひ制度を見直し、できれば一挙に高校卒業まで無料にしていきたいです。

しかし、これは自治体の制度であり、国は何もしていません。それでもいいのかな。やっぱり国が全国一律の制度を作るべきだと思います。

読者の投稿欄



上越市の子ども医療費助成の拡充を

塚田 次郎

上越市の子ども医療費助成の制度が、このところ進展がないようです。上越市は入院・外来ともに0歳から就学前までは全額補助が出ます。小学生から高校卒業までは一部負担が必要ですが（入院は日に1200円、外来は日に530円で月4回まで）。つまり小学校に入学するまでは無料であり、小学生から高校生

までは一定の負担が必要

です。ところが隣の妙高市では、この負担がありません。高校生まで完全に無料が続きます。数年前からそうになりました。同じく糸魚川市でも高校生まで無料です。

かつては、上越市内で先の上越市が子ども医療費助成の制度を作り、それを追う形で妙高市と糸魚川市が制度を作ってきました。しかし、最近はその傾向がなくなりました。妙高市と糸魚川市に先を越されたのです。

中川（幹太）市政の

4年間で、制度の拡充はありませんでした。残念な思いで見えています。昨春秋に新たに市長になられた小菅（淳一）さんはどうでしょうか。

本年度の予算編成では新市長のカラーはあまり出せなかったようですが、これからは小菅さんの思うようになります。次の予算編成に向けて、子ども医療費助成の進展についても議論を加速させてほしいと思います。（小児科医、上越市西城町1、69歳）